「栄養教諭・栄養職員等を対象とした農業体験と意見交換会」開催概要

～食の大切さを農業とともに考えよう！～

■日　時：平成23年8月30日（火）10：00～15：00
■場　所：岡山県農林業実践学習の里「体験学習農園」
■参加者：27名　（栄養教諭・学校栄養職員、中国四国食育ネットワーク会員、体験学習農園）
■主　催：中国四国農政局
■後　援：岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山県学校栄養士会、
　　中国四国食育ネットワーク

■概　要

【午前の部】 10:00～12:00

１　開会あいさつ　　中国四国農政局　中島次長

２　農作業体験（野菜畑）

〇作業内容（指導：体験学習農園塾長）

（1）デラウェアの収穫

ぶどう園にてデラウェアの収穫

（2）冬野菜「大根」及び「にんじん」の種まき

①基肥えの散布（窒素・リン酸・カリの混合粒剤）

②大根・にんじんの畝立て

③畝のならし

④大根・にんじんの種まき・覆土

⑤大根・にんじんの覆土に稲藁をかぶせ、水やり

（3）トマトの収穫

ハウスにてトマトの収穫

〇古民家見学

農業歴史展示館で昔の農機具や移築された築 180 年の古民家などを見学。

（大根の畝立て作業）

（「かまど」での炊飯）

【昼　　食】 「県産自給率 100％豚汁」

「かまど」で炊いた“おにぎり”

【午後の部】 13:30～15:00

３　意見交換会

〇食育の取組み紹介

（中国四国農政局消費・安全部消費生活課）

〇食農教育の有識者による講演

「食と農で健やかな心をはぐくむ」

（武庫川女子大学 専任講師　藤本勇二 氏）

（藤本講師）

《講演要旨》

・「農」の現場を知ることは「食」を豊かにすることになる。

・子どもにも大人にも「ままならないもの」があり、 農業体験には3つの価値がある。

① 子どもにとってままならないもの＝「技」。専門家の「技」（時間、塩梅、加減）のすごさを自覚してほしい。

② 大人にとってままならないもの＝「子ども」。田んぼや畑に行くと子どもには農作業以外にも関心事があり、言うことを聞いてくれないが、ひとりひとりの関心を受け止めてくれるものがいっぱいあることは素敵なこと。農業体験からは、農業の大切さだけではない、見い出せる価値がたくさんある。

③ 大人にも子どもにもままならないもの＝「時間」。学校生活は時間どおりに進めなければならないため、大人も子どもも追い込まれている。農業や調理もこちらで収穫時期や調理時間を決められない。相手の時間に合わせるしかないことは相手を理解しようとすることであり、よって人は謙虚になる。

・子どもは、「ままならない時間」に上手に付き合っている大人、時間を工夫している大人を尊敬し、そういう大人を望んでいる。

・調理の現場でしていることが「農」に豊かにつながったことを自覚して、自分の立ち位置の大切さを思って、子どもの前に立つことが大切。

・今後も「農」の現場を体験することにより、子どもの前に立つときの強さ、魅力がますます引き立つ。

（古民家での意見交換）

〇意見交換（ワークショップ）

テーマ:「食の大切さを農業とともに考えよう！」

（コーディネーター　藤本勇二 氏）

《主な意見》

（参加者）

・食育、食育とは言っても、自分自身が農業との関わりが薄く、知らないことばかりだ。食と農を合わせて学ぶことで、知識がより深く、具体的なものになり、食育に活かせると思う。

（藤本講師）

・教える側も知らないことが多いが、「知らない」ということを自覚できるかが大切。

・農の人とつながると、食材の活かし方も今以上に深まるのでは。

（参加者）

・スーパーで売られている野菜しか知らない子どもたちが、農業体験ができたら食について興味を持つ良い機会になるのではないか。

（藤本講師）

・「食と農」をつなげたいという気持ちは同じだが、体験をすると感じることは人それぞれだ。

・質の良い体験をして知ったことは人に伝えたくなる。

《まとめ》

（藤本講師）

・体験するとその向こう側にいる人（生産者など）に思いが至る。

・体験をすることで、人が人として生きているモデルとなる大人（プロの大人）に出会わせる場になる。
・皆さんが、あきらめずに、へこたれずに続けてほしい。

《コメント》
（消費・安全局教育ファーム推進班　大山班長）
・藤本先生の話がストーンと心に落ちたなら、農業体験をしたからこそで、うまく融合して誰かに伝えたくなったのではないか。

４　閉会あいさつ　　中国四国農政局消費・安全部　石場部長